

【短報】神奈川県横浜市北部におけるヨツモンカメノコハムシの生息状況

ヨツモンカメノコハムシ *Leccoptera quadrimaculata* (Thunberg, 1789) は、アジア南東部から国内では南西諸島においてヒルガオ類を寄主植物として生息する広域分布種として知られている（木元・滝沢, 1994）。近年、分布域を拡大して九州（福岡、熊本、宮崎）、四国（愛媛、高知）に続き本州では山口県、静岡県、伊豆大島、大阪府（未発表）、三重県、神奈川県で確認されるに至っている（稲垣ほか, 2017；神奈川県農業技術センター, 2017；重藤, 2017）。神奈川県厚木市での記録では4-7月に成虫が確認されているが（重藤, 2017）、筆者は以下のように本種を確認しているためその分布と生息状況について報告したい。

成虫多数、幼虫少数、神奈川県横浜市緑区長津田台, 30. X. 2018, 日下部確認、一部採取・飼育中。

神奈川県東部（詳細地不明、神奈川県農業技術センター, 2017）と同様に10月にサツマイモ畑で確認した（図1-5）。畑の管理者に話を伺ったところ、「サツマイモの品種は紅はるかで、2017年には、ハスモンヨトウ *Spodoptera litura* により葉が食害される被害が若干あったが、このように激しく葉が食害されたのは今年が初めて」とのことであった。このことから当地への侵入の歴史はまだ浅いのではないかと推察される。また、気温が低下する10月末に極めて多数の成虫が確認されたことは、当地での越冬形態が成虫体であることを示唆するものと考えられる。なお、飼育状況下（室温15-20℃；自然日長）では、与えたサツマイモの葉を食害せずにケージの隅に集合し、活動休止状態である（図6）。さらに本種は、ヒルガオ科植物内において宿主の嗜好性が確認されていることから（越智・吉富, 2016）、今後、野生や園芸種のヒルガオ科植物（ヒルガオなど）と作物栽培種のヒルガオ科植物（サツ



図1. 多数の成虫を確認したサツマイモ畑。



図2. 食害による葉の被害状況。



図3. ヨツモンカメノコハムシ成虫。



図4. 同 幼虫（静止状態）。



図5. 同 幼虫（威嚇状態）。



図6. 成虫の飼育状況。

マイモ類)などのフェノロジーに合わせた生活様式を持つこと、即ち、季節的に最適な植物種間を移動、利用することにより定着し、さらに分布域を拡大していくのではないかと推察される。今後の動態に注意していきたい。

末筆ではあるが、調査に協力して頂き、被害状況などを教示して頂いたサツマイモ畑の管理者である石井氏(横浜市)と調査に同行して頂いた大木裕氏(横浜市)にお礼申し上げる。

引用文献

- 稲垣憲昭・渡辺靖夫, 2017. 紀伊半島からヨツモンカメノコハムシを確認. ひらくら, (453): 44.
 神奈川県農業技術センター, 2017. 平成28年度 病害虫発生予察特殊報告, 第4号. 3pp.
 越智あずさ・吉富博之, 2016. 四国に分布拡大したヨツモンカメノコハムシ. さやばねニューシリーズ, (21): 53-56.
 重藤裕彬, 2017. ヨツモンカメノコハムシの分布北限記録の更新. さやばねニューシリーズ, (28): 27-28.

(日下部良康 224-0013 横浜市都筑区すみれが丘 21-12)

【短報】広島県におけるモリモトタマノミハムシとクロタマノミハムシの初記録

モリモトタマノミハムシ *Sphaeroderma morimotoi* Ohno, 1964 は福岡県英彦山を模式産地として記載された種で、中型で全身がつやを帯びた漆黒が特徴的なノミハムシの仲間である。その後、長崎県の雲仙岳と多良岳(今坂・西田, 1989; 今坂, 2001), 大分県の黒岳(今坂・三宅, 2009), 福岡県の釈迦岳(今坂ほか, 2017), 山口県(三好・田中, 1988), 岡山県真庭市と西粟倉村(末長, 2018)で記録され、現時点では九州と中国地方の山地帯に

局所的に分布していることがわかっている。クロタマノミハムシ *S. atrum* Jacoby, 1885 は Ooyama と Kiga, Nikko から記載された種で, Ohno (1964) では英彦山から記録している。しかし, Kimoto (1965) によりムネアカタマノミハムシ *S. placidum* Harold, 1877 のジュニアシノニムとして処理された。その後, Takizawa (2015) により成虫写真と雄交尾器の図を含めた再記載を行い, 再び独立種として目の目を見ることとなった。また, Takizawa (2015) では栃木県と静岡県から記録している。

この度、筆者らはモリモトタマノミハムシとクロタマノミハムシを広島県内で確認したので、県初記録として記録する。なお、標本データの特記に記述のないものは全て大塚採集・保管である。



図1. モリモトタマノミハムシ。

モリモトタマノミハムシ (図1)

安芸太田町横川: 1 ex., 2. IX. 2017; 2 exs., 24. IX. 2017; 1 ex., 24. IX. 2017, 末長保管; 1 ex., 12. V. 2018; 3 exs., 26. V. 2018; 1 ex., 9. VI. 2018; 4 exs., 4. VIII. 2018; 3 exs., 11. VIII. 2018; 2 exs., 18. VIII. 2018; 3 exs., 26. VIII. 2018; 4 exs., 2. IX. 2018.

安芸太田町虫木ノ峠: 1 ex., 8. IX. 2017.

安芸太田町内黒峠: 1 ex., 16. VI. 2017; 1 ex., 9. VII. 2018.

庄原市比和町越原: 1 ex., 20. VII. 2008, 秋山採集・保管。

庄原市西城町立烏帽子山: 1 ex., 17. VIII. 201, 秋山採集・保管。

庄原市西城町竜王山: 1 ex., 30. V. 2017, 秋山採集・保管。



クロタマノミハムシ (図2)

安芸太田町横川: 1 ex., 8. IX. 2017; 1 ex., 18. VIII. 2018.

両種について、いずれもヘクソカズラなど各種の植物やアザミ類、ミヤマカタバミ、ホトトギ